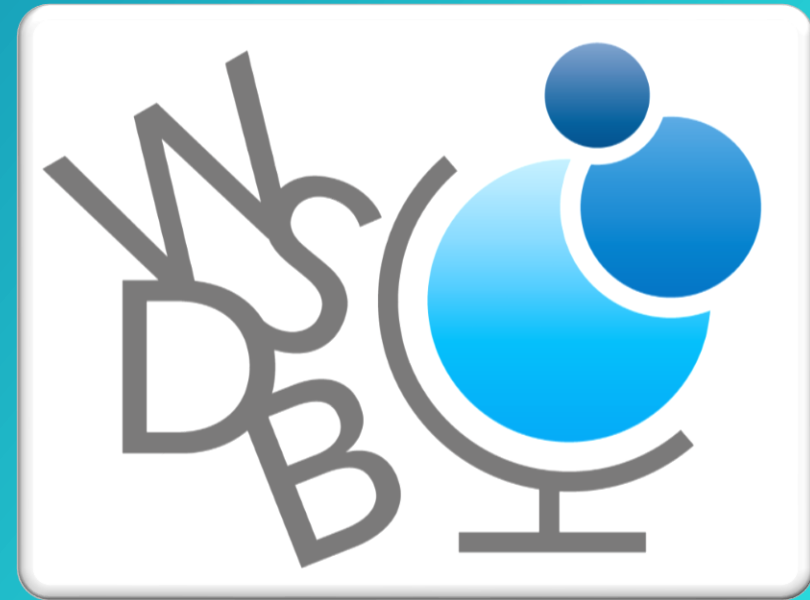


WSDB

World Students'
Data Base



株式会社OneTerrace
スクールソリューション部門
井上 智之

国際学生管理の販売を通じて ダイバシティ & インクルージョン実現の最先端 である学校教育に貢献する

- 業務をDX化するためには、業務を標準化するという作業が伴います。WSDBは、現在の日本の教育システムで、留学生が標準化から外されてしまうことを社会的損失と考えています。持続的な社会を実現するために、システムによる教育格差が生まれないようにしていくことを、ミッションとしてシステム開発に取り組んでいます。

元日本語学校職員、異色の経歴をもつ事業責任者が考える学校改革



株式会社OneTerrace
スクールソリューション部 事業部長
井上 智之

略歴

・就職氷河期世代として大学を卒業し、株式会社イーブックイニシアティブジャパンの契約社員として就職。その後、正社員として製造業、飲食業など複数の業種・企業を経験し、日本語学校に転職する。事務、学内システム、日本語教師など複数の業務を経験し「業界の収益構造の改善をしなければ、日本語教師は食える仕事にならない」と考え、2018年から株式会社OneTerraceにて「学生管理システム」の販売を開始、現在に至る。

ところで……

日本語教師を国家資格化して、
日本語教師の年収は上がるのでしょうか？

政府の提言により、2024年からの日本語教師国家資格化に向けて準備が進められています。国会でも何度か答弁されているように、国家資格化の目的には、業界の安定的成長に欠かせない日本語教師の賃金上昇も含まれています。



日本語学校職員時代の気づき

日本語教師が、1時限に行える授業の最大人数は20名。

教師1名がクラスに入った場合の労働生産性は最大値が決まっている



日本語教師がどれだけ質の良い授業を行っても、日本語教育機関でクラスを運営するという観点から見た場合、収入を上げることは難しい。「教育力+ α 」の力がなければいけない時代になっている。



学校全体で、利益を生み出す構造がなければ、教師の収入をあげることはできない。

日本語学校の数に対して、日本語教師の数が不足している中「教育力+ α 」を持っている日本語教師は、必ずしも日本語学校で働く必要はありません。
学校としては、個人に+ α を求めるのではなく、組織として利益を確保しなければ、人材獲得が難しくなっています。

日本語教育機関の収益を上げるには

- 1 業務改善を行い事務作業を効率化し、利益を増やす。
- 2 エージェントへの手数料を減らし、1学生当たりの利益を増やす。
- 3 直接募集を増やし、1学生当たりの利益を増やす。
- 4 授業料を上げ、1学生あたりの売上を増やす。
- 5 クラス数を増やし、学校全体の売上げを増やす。
- 6 留学生向け授業以外の事業で、学校の新たな売上げを増やす。



WSDBは、**学校のICT化**と**日本語教育業界のDX化**を行うことで、これらの問題の多くを解決します。

WSDBシステムを利用し、業務をICT化、 学校の利益を最大化します。

- ✔ 1 業務改善を行い事務作業を効率化し、利益を増やす。
- ✔ 2 エージェントへの手数料を減らし、1学生当たりの利益を増やす。
- ✔ 3 直接募集を増やし、1学生当たりの利益を増やす。
- ✔ 4 授業料を上げ、1学生あたりの売上を増やす。
- ✔ 5 クラス数を増やし、学校全体の売上げを増やす。
- ✔ 6 留学生向け授業以外の事業で、学校の新たな売上げを増やす。

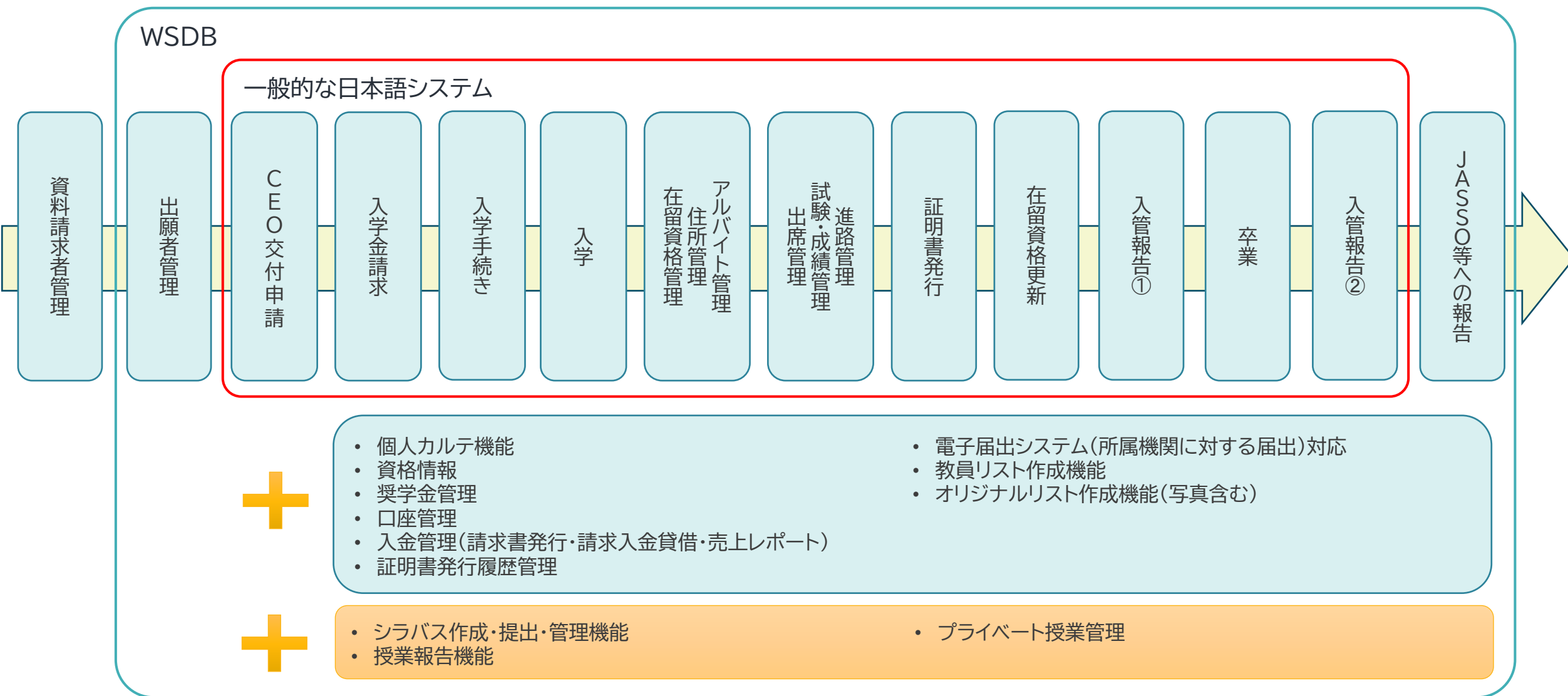
学校が導入するシステムは、大きく分けて2パターンあります。

- ①基幹系システム — 学生管理・入金管理・証明書発行などを行う『利益率』を高める守りのシステム
- ②学習支援系システム — LMS等の授業・学習を管理する『売上』を高める攻めのシステム

利益の最大化から考えた場合

- ①基幹系は、現行作業を見直し、業務効率化を行うため、ローリスク・ハイリターンです。
- ②学習支援系システムは、コンテンツの良し悪しに影響されるため、ハイリスク・ローリターンです。

留学希望者登録～卒業を一括で管理



入力した内容が統合・統計データ、帳票、報告資料に流用できるか

学校の抱える問題

統計

1. 学生のすべての情報を1ページで確認できない。
2. 在留資格のデータは入れているが、更新すべき人がリストアップされない。
3. 毎日出席は取っているが、リアルタイムに出席率を確認できない。
4. 出席率が低い学生をリストアップできない。
5. 留学生のみトータル出席率がすぐ出てこない。
6. 国籍別の人数がすぐわからない。

帳票

1. 証明書ごとの附番記録が残っていない。
2. 証明書の発行履歴が残っていない。
3. 学生証は、システム外で作っている。
4. 入力した出席が出席証明書に正しく反映されない。
5. 成績を入力する意味がないため、成績証明書はシステム外で作っている。
6. クラス名簿、全クラス名簿を別途作っている

報告資料

1. 申請者リスト等(東京:受理台帳等)は、システム外または、別途作っている。
2. 合格証は別途作っている。
3. 中長期受入れ届を紙で出している。もしくは、入管のエクセルを使い一括で電子申請している。
4. 「6月間の出席率報告」は、システム外または、別途作っている。
5. 「課程修了者の日本語能力報告」は、システム外または、別途作っている。
6. JASSOなどの報告資料を作るためのデータが取り出せない。

WSDBで解決

統計

1. 個人カルテですべての情報を1ページで確認。並び替え、権限設定にも対応。
2. アラーム機能で、更新期間の学生をすぐに確認可能
3. 入力した出欠を含めた出席率をすぐに確認可能。状況をすぐに確認できます。
4. 前月今月の出席不良者をすぐに確認可能。
5. 留学生の学校全体、クラス別、国籍別、入学度別出席率を確認可能。
6. 現在の学校の国籍分布がすぐに確認可能。海外営業時もログインするだけ。

帳票

1. 証明書の附番は、学校の設定に合わせて自動附番され、記録はすべて残ります。
2. 「誰が」「どの学生に」「どの証明書を」「いつ」「いくらで」発行したか、自動的に記録され、確認できます。学校として「知らない」では管理責任を問われかねません。
3. 紙の学生証、デジタル学生証両方に対応しています。
4. 学校が入力し、画面で確認した出席率が、証明書に正しく反映されます。
5. 成績評価のたびにシステム記録されるため、学習の振り返りにも利用可能。
6. 学校の多くが作成している授業運営用の資料も対応しています。

報告資料

1. 申請リスト等も地方入管ごとに対応しています。
2. 入学許可書と別に合格証も作成可能です。
3. 入管のエクセルを使用せず、直接取込可能なCSVファイルが作成できます。紙での申請も今まで通り可能です。
4. 簡単な条件入力で作成可能。日々の出席データが正しく反映されます。
5. 資格情報、進路情報のデータを活用し、簡単な条件入力で作成可能。
6. オリジナルリスト作成機能で、JASSOの国籍コードを含んだデータを取り出す事が可能。公的機関以外の資料作成が簡素化されます。



紙をなくしたエコな学校運営



出席 時間割

昨日の出席

1. 出席 2. 遅刻 3. 欠席 4. 公欠

出席合計 < 2020 >

授業開始日: 2020-04-06

月	出席率%	出席	欠席	遅刻	早退	調整	公欠
04	97.2	69	1	2	0	0	0
05	66.2	41	21	3	3	0	0
06	79.8	63	17	0	0	0	4
07	85	72	12	0	0	0	0
08	100	64	0	0	0	0	0
09	0	0	0	0	0	0	0
10	97.7	85	2	0	0	1	0
11	96.1	73	3	0	0	0	0

ホーム 大学・専門学校を探す 言語切替



WSDBの学生用スマホアプリがあれば、学生に紙を渡す必要はありません。

学生の多くは、母国の学校でデジタルを使ったフィードバックを受け取れる環境にあります。留学後の学習環境に対する印象は「日本は遅れていてびっくりした」というものになっています。

学生の多くがデジタルネイティブ世代になる中で、スマホ等でのフィードバックは、インフラのひとつと捉える必要があります。

試験や、成績確認などは単に「学校側の手間が省ける」というだけでなく、学生がいつでも自分の学習状況を確認することができるようになることで、学習のモチベーション、学習改善にも影響があるからです。

デジタルインフラを整えられない学校は、今後、学生から選ばれなくなると考えています。

IDの発行制限なし

よくある学校のパターン

- 基幹システムがID数によって課金されており、使用者を限定している。
- システムが使える人が限定され属人化が進み、業務が見えなくなる。
- システム使用者が辞める事になって初めて、システムを触り利用頻度が減っていくか、引継ぎも行われずシステムが継続できない。
- 事務、教務等の様々な部署で、同様の事が発生している。
- IDの使いまわしでセキュリティレベルが低い。



高コスト、不安定、不適切な情報管理



WSDBを利用している学校

- ID課金がないため、**すべての関係者**にIDを付与できる。
- 誰もがシステムを使えるため、属人化を防ぎ、業務の見える化が可能。
- 全ての職員が業務で少しずつシステムを利用するため、重要な人が抜けても業務の引継ぎを行いやすい。
- 部署に関わらず引継ぎがスムーズで、部署間の連携も容易。
- 個別ごとにIDが割り振られ、機能別に権限を与える事で、高いセキュリティレベルで運用可能。



低コスト、安定的、適切な情報管理



ISO27001 (ISMS) 開発会社取得

「Information Security Management System (情報管理マネジメントシステム)」に対する国際規格です。情報セキュリティで重要視されている下記の3要素に関して主に審査されます。

機密性: 情報に対して許可された個人のみアクセスできる状態

完全性: 情報および処理方法が正確かつ最新の状態で管理されている状態

可用性: 許可された個人が必要な時にアクセスできる状態

ISMSでは、外部からの攻撃を阻止するだけでなく、内部の人が情報を利用しやすい状態で、適切に管理することが重要であるとされています。

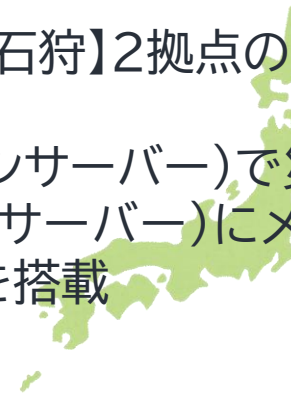
Pマーク 開発会社取得

プライバシーマーク制度は、日本産業規格の JIS Q 15001「個人情報保護マネジメントシステム—要求事項」に適合して、個人情報の適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を認定して、その旨を示すマーク(プライバシーマーク)を付与し、事業活動に関してプライバシーマークの使用を認める制度です。



ディザスタリカバリ(災害復旧)標準搭載

- 【東京】と【石狩】2拠点のリージョンを契約
- 東京(メインサーバー)で災害が起こった際、石狩(サブサーバー)にメイン機能が移行される機能を搭載



WSDBの仕組みに参画し、日本語教育業界のDX化に寄与、 日本留学申請の簡素化に大きく貢献できます。



- 1 業務改善を行い事務作業を効率化し、利益を増やす。
- 2 エージェントへの手数料を減らし、1学生当たりの利益を増やす。
- 3 直接募集を増やし、1学生当たりの利益を増やす。
- 4 授業料を上げ、1学生あたりの売上を増やす。
- 5 クラス数を増やし、学校全体の売上げを増やす。
- 6 留学生向け授業以外の事業で、学校の新たな売上げを増やす。

日本語学校は、日本に来たい海外の方がいないと

成り立たないビジネス



- アジア留学は、日本一極から、韓国、中国、台湾など幅広く分散しています。
- 経済的な優位性も少なくなってきました。



日本留学希望者が少なくなっている中で、留学希望者を日本語教育機関が取り合うより、**日本留学を推進するような取り組み**が必要。



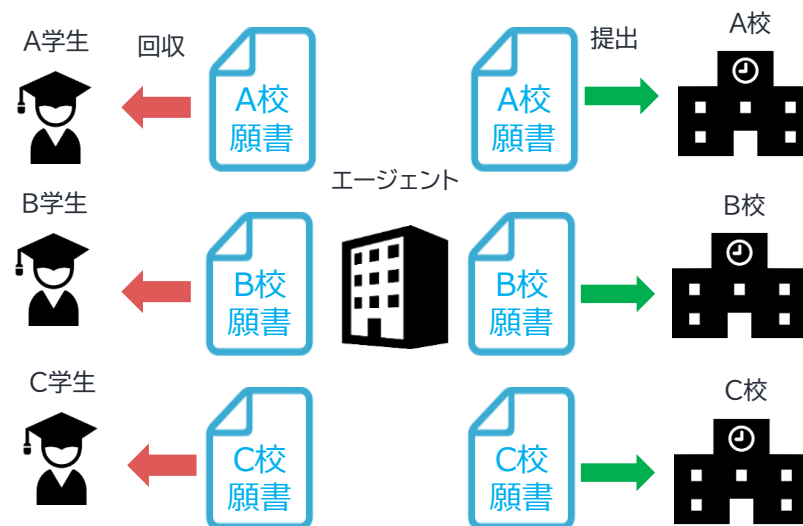
WSDB申請作業はクラウドシステムの特性を活かし、日本留学申請を規格化していくことで、日本留学の業務プロセスを改善（DX化）していく、民間主体の取組です。

日本留学を簡素化し脱落者を減らす申請のDX化

従来の日本留学申請

- 各学校ごとに、内容はほぼ同じにもかかわらず願書がことなる。
- 地方入管ごとに回収する内容に差異がある。
- 学生は、学校を決めてからしか、留学に必要な正確な情報がわからない。
- 願書に間違いがあれば、その都度修正し、再度提出が必要。
- エージェントは学校ごとに異なる願書により、手間がかかる。

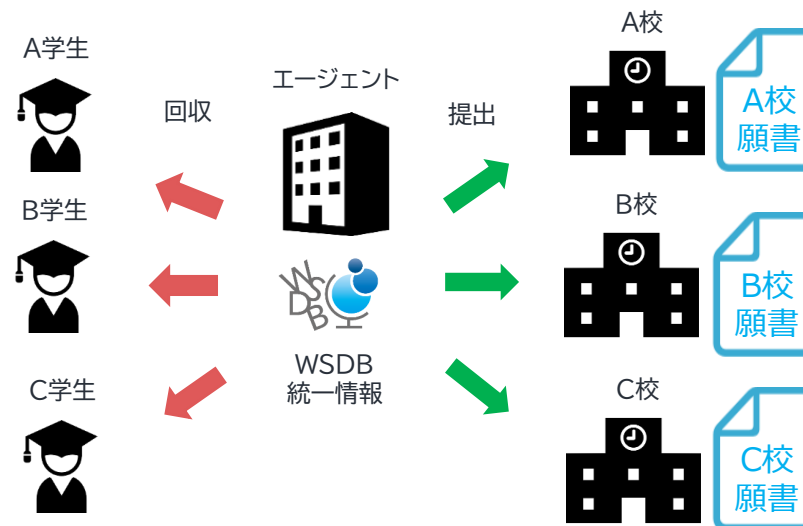
画一化されない回収情報、煩雑な修正作業、願書の個別対応



WSDBの目指す日本留学申請

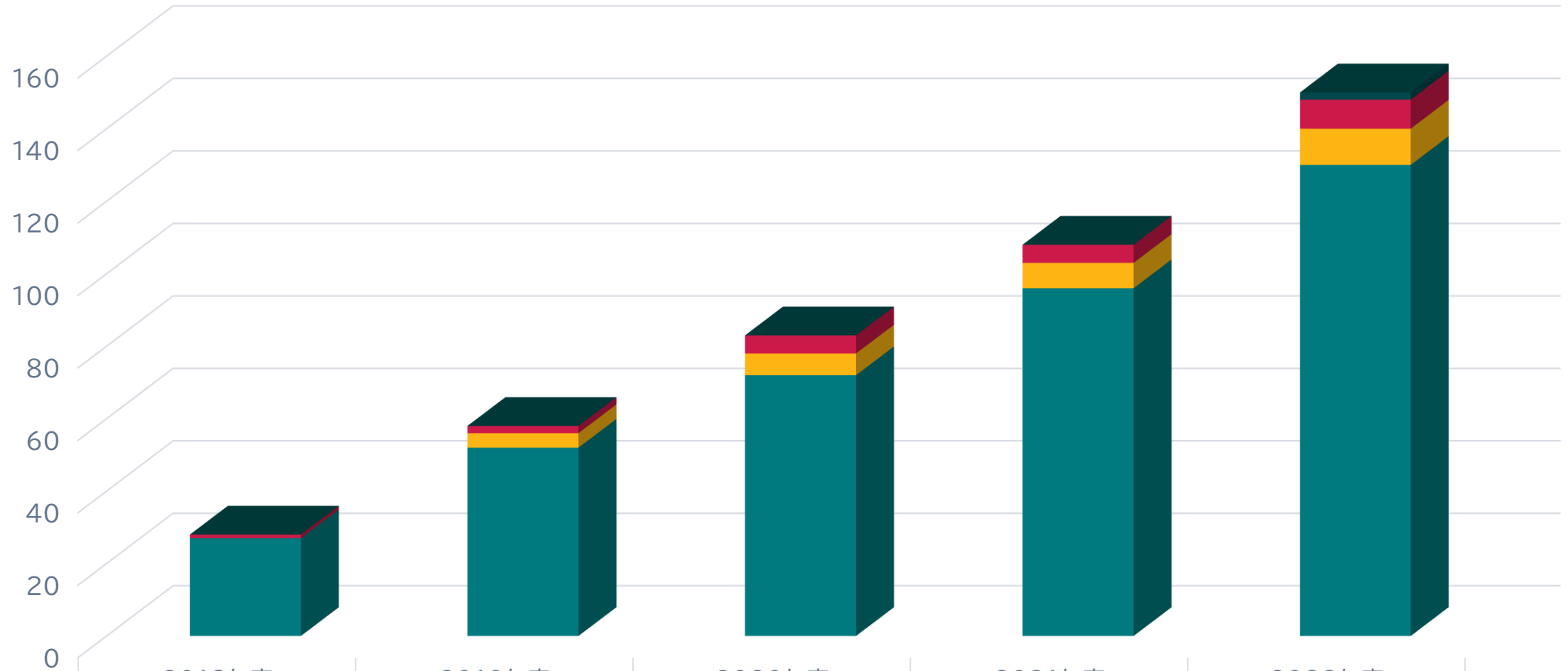
- 願書を作成する前に統一した情報を回収。
- 地方入管ごとに回収する内容は、自動的に対応。
- エージェントは学校ごとの願書を意識する必要がない。
- 学校が確認した願書にサインをするため、修正が少ない。修正した内容も学校がシステムで確認するため、再提出回数も最小限。
- エージェントは学校ごとの願書を意識する必要がない。

画一化された回収情報、簡易な修正作業、願書対応なし



より理想的な留学申請フローを実現するため、すでに多くの学校がご参画しています

WSDB導入校数推移

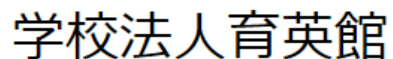


	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
■大学	0	0	0	0	2
■大学留学生別科	1	2	5	5	8
■専門学校	0	4	6	7	10
■日本語学校	27	52	72	96	130

■日本語学校 ■専門学校 ■大学留学生別科 ■大学

導入例 <https://wsdb.jp/school-customers/>

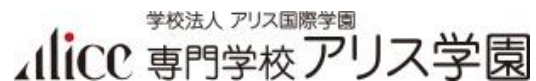
学校法人グループ系（複数の学校形態を運営）



大学系



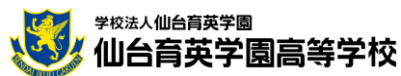
専門学校系




日本語学校系



市区町村系 その他



先を見据えたシステム開発



証第2101-00046号
2021年06月12日

日本語熟達度証明書

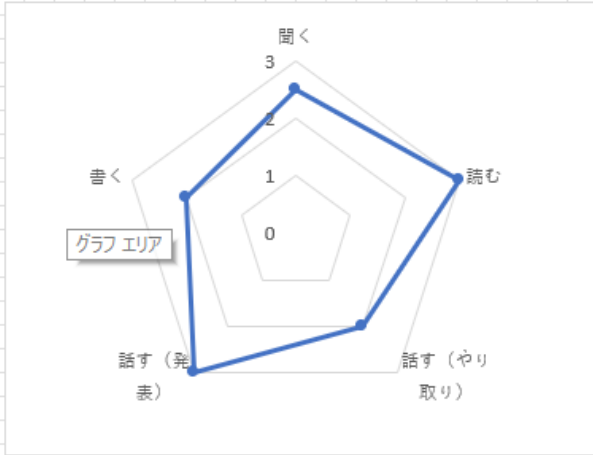
期間:自 2020年04月06日 至 2021年06月12日

提出先:出入国管理局

氏名 Name	井上 TEST1 INDUE TEST DATA		
学籍番号 Student No.	202004001	履修課程 Course	2年コース(4月入学) 2 years course
性別 Sex	男 Male	入学年月日 Date of entrance	2020年01月01日 Jan 01, 2020
生年月日 Date of birth	2000年01月03日 Jan 03, 2000	授業開始日 Date of starting	2020年04月06日 Apr 06, 2020
国籍・地域 Nationality	台湾 TAIWAN	修了予定日 Date of graduation	2022年03月31日 Mar 31, 2022

言語活動別熟達度 (common reference levels)

言語活動	言語活動(英語)	レベル
聞く	Listening	A2+
読む	Reading	B1
話す(やり取り)	Speaking (conversational)	A2
話す(発表)	Speaking (presenting)	B1
書く	Writing	A2



言語活動別熟達履歴

評価日	評価者	聞く	読む	話す(やり取り)	話す(発表)	書く
2023年9月28日	井上 智之	A2+	B1	A2	B1	A2
2023年3月31日	洪 永	A2	A2+	A2	A2+	A2
2022年9月28日	井上 智之	A1	A2	A1	A2	A1
2022年3月31日	洪 永	A1	A1	Pre-A1	-	Pre-A1

- 日本語教育の質の向上に向けた動きにあわせ、シラバス作成機能を利用可能。
- 「日本語能力の参照枠」に準拠した日本語熟達度証明書を開発中。
- 入金に対する学生と学校の業務を改善するため、学費の海外送金フィンテック大手Flywireと提携。8月連携開始予定。
- 留学生の口座開設に対する問題を解決するため、地銀と協力体制を協議中。